

# 日本遺産 (Japan Heritage) 認定制度と 地域のジャパンコンテンツとしての 「盛岡さんさ踊り」のご紹介



弁護士知財ネット  
ジャパンコンテンツ調査研究チーム  
(岩手弁護士会所属)  
弁護士 遠藤 大介

## ～はじめに～

2020年オリンピック・パラリンピックの開催が東京に決まる中、文化庁を中心として、今後の文化芸術の基本方針や「文化プログラム」の実現に向けた様々な活動が各地で行われている。なぜなら、オリンピズムは、オリンピック憲章にも謳われているように、人生哲学であり、肉体と意思と知性の資質を高めて融合させた、均衡のとれた総体としての人間を目指すものであるため、スポーツを文化と教育と融合させるための、いわゆる「文化プログラム」の実施は、オリンピック開催国の義務であるとされているからである。

そこで、今回は、第1部において、各地で実施されている多くの「文化プログラム」の活動の中でも、特に、オリンピック後を見据えた文化政策の中心として位置づけられている「日本遺産 (Japan Heritage)」の認定制度について簡単にご紹介した上で、第2部として、今後、日本遺産 (Japan Heritage) に認定されることが期待される地方に根付く文化等 (ジャパンコンテンツ) の一例として、岩手県の「盛岡さんさ踊り」をインタビュー形式でご紹介したい。

## 第1部 日本遺産 (Japan Heritage) 認定制度について

### 1. 日本遺産 (Japan Heritage) 認定制度

まず、日本遺産 (Japan Heritage) 認定制度とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」に認定するとともに、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の文化財群を地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に戦略的に発信することにより、地域の活性を図ることを目的とした文化政策である。

そして、ここで言うストーリーとは、単なる歴史や文化財の説明ではなく、地域に根ざし世代を超えて受け継がれている内容であり、かつ、歴史的魅力発信のための明確なテーマ設定がなされていることが求められている。

すなわち、従来型の文化財行政が、個々の遺産 (国宝・重要文化財・史跡・無形文化財など) ごとに、それらをいわば「点」として指定した上で、その「保存」行為に重点を置いていたこと

に対し、上記日本遺産（Japan Heritage）認定制度は、地域に点在する様々な遺産を、パッケージ化した上で一体的にPRするといったように、いわば文化財群を「面」として、国内外に発信していく「活用」重視の制度であるといえる。

そして、このように「活用」を前面に置くことで、地域の観光振興に繋げることが可能となることに加え、地域における「活用」を促進することで、地域経済の活性化に加え、更なる文化財の保存・活用につながるサイクルの構築が可能となるのである。

主な事業内容としては、①情報発信・人材育成事業、②普及啓発事業、③公開活用のための整備に係わる事業が想定されており、①情報発信・人材育成事業の内容としては、日本遺産コーディネーターの配置、多言語HP、パンフレットの作成、ボランティア解説員の育成等、②普及啓発事業の内容としては、発表会、展覧会、ワークショップ、シンポジウムの開催、日本遺産PRイベントの開催、ご当地検定の実施等、③公開活用のための整備に係わる事業の内容としては、ストーリーの理解に有効なガイダンス機能の強化、周辺環境等整備が想定されている。このように、自治体に対し、日本遺産に関する情報発信等に係わる支援策を用意しているほか、ハード面に関する事業をメニュー化することで、地域における文化財の「活用」を促進することが期待されている。

なお、日本遺産（Japan Heritage）のロゴマーク（本稿末尾に掲載）は、デザイナーの佐藤卓氏が手がけており、ロゴマークの日の丸は、日本を表し、その下の縦格子のように見える繊細な線の集合は、「Japan Heritage」の文字を形づくっている。そして、それらの線の集合が、ひとつの「面」を形づくっているように、まさに、点から線へ、そして面で捉える日本遺産（Japan Heritage）の考え方そのものを表現しているものであるといえる。興味のある方は、是非、文化庁の当該ホームページ<sup>1</sup>等を参照されたい。

## 2. 現状と今後の展開

2015年5月現在、認定されている日本遺産（Japan Heritage）は、18件あり、様々な文化財群で構成されている<sup>2</sup>。ここでは、紙幅の都合上、一部のものしかご紹介できないが、「近世日本の教育遺産群－学ぶ心・礼節の本源－」のように、茨城県、栃木県、岡山県、大分県と、複数の県の協力関係のもと構成されているものや、「かかあ天下－ぐんまの絹物語－」のように、観光客の目を引くようなストーリー及びタイトルになっているものもある。この「かかあ天下」は、古くから絹産業が盛んな上州で、養蚕・製糸・織物で家計を支え、製糸工女や織手として活躍した女性達を、夫が「俺のかかあは天下一」と呼び、これが「かかあ天下」として上州名物になるなど、経済を支えた日本の女性の姿を表したものであり、興味深い内容となっている。

いずれの日本遺産（Japan Heritage）についても共通しているのは、やはり、それぞれの文化財群をつなげるための明確なテーマ・ストーリーの設定がなされていることであり、それらを如何に、聞き手や見る者に印象付けるかという様々な工夫がなされていることが読み取れる。

〈主な日本遺産（Japan Heritage）の例〉

(1) 近世日本の教育遺産群－学ぶ心・礼節の本源－

水戸市（茨城県）・足利市（栃木県）・備前市（岡山県）・日田市（大分県）

---

1 文化庁の日本遺産登録制度を解説したウェブサイト [http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/nihon\\_isan/index.html](http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/nihon_isan/index.html)

2 前注のウェブサイトをご参照されたい。

- 【主な構成文化財】旧弘道館、足利学校跡、旧閑谷学校他
- (2) かかあ天下ーぐんまの絹物語ー  
群馬県 (桐生市、甘楽町、中之条町、片品村)  
【主な構成文化財】富沢家住宅、中之条町六合赤岩伝統的建造物群保存地区他
- (3) 加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡ー人、技、心ー  
高岡市 (富山県)  
【主な構成文化財】瑞龍寺、高岡御車山祭の御車山行事、高岡城跡他
- (4) 灯 (あか) り舞う半島能登ー熱狂のキリコ祭りー  
石川県 (七尾市、輪島市、珠洲市、志賀町、穴水町、能登町)  
【主な構成文化財】能登のキリコ祭り、藤津比古神社、御神事太鼓他
- (5) 海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群ー御食国 (みけつくに) 若狭と鯖街道ー  
福井県 (小浜市、若狭町)  
【主な構成文化財】鯖街道 (若狭街道)、熊川宿、上中古墳群、小浜市場他

なお、今後、日本遺産 (Japan Heritage) は、2020年東京オリンピック・パラリンピックまでの間に、100件程度にまで増えていくことが予定されている。

そこで、今回は、現時点では日本遺産 (Japan Heritage) には認定されていないものの、東日本大震災の被災地である東北地域 (岩手県) に根付く文化として、今後の文化財群としての活用が大いに期待されている「盛岡さんさ踊り」と、その歴史的背景・ストーリーについて、インタビュー形式でご紹介したいと思います。

## 第2部 地域のジャパンコンテンツについてー盛岡さんさ踊りー

(インタビュアー＝聞き手は、遠藤大介 [筆者])

### 1. はじめに

**聞き手:** 本日は、世界に誇る日本の文化、いわゆる「ジャパン・コンテンツ」として、岩手県盛岡市において毎年8月に開催されます「盛岡さんさ踊り」のインタビューをさせて頂きたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

早速ですが、皆様は、盛岡さんさ踊りの実行委員会でいらっしゃいますが、ここで、所属団体の簡単な説明も含めまして、盛岡さんさ踊りの簡単なご紹介をして頂ければと思います。

**門前氏:** 盛岡商工会議所の門前と申します。盛岡商工会議所は、1925年の発足以来、商業や工業、地場産業の振興・育成、貿易の促進、国際化の推進、文化事業の推進など、多方面にわたる地域振興のための事業を推進しており、岩手が誇る文化である「盛岡さんさ踊り」につきましても、実行委員会の事務局をやらせて頂いております。盛岡さんさ踊りは、昭和53年に第1回を開催して以来、今年で38回目を迎えますが、今年も8月1日～4日までの4日間、盛岡市の中央通をメイン会場とし、「魅せる祭り」と「参加する祭り」のコラボレーションを展開し、祭りを盛り上げていきます。本日は、2013年ミスさんさ踊りの坂本さんと、ミス太鼓の岡本さんと共に、その魅力についてお伝えできればと思いま



かどまえ こうき  
門前 公基氏

(盛岡商工会議所地域振興部部长)

す。

**坂本氏・岡本氏**：よろしくお願ひ致します。

**岩瀨氏**：一般社団法人盛岡青年会議所の理事長の岩瀨と申します。「盛岡さんさ踊り」の実行委員会副委員長をやらせて頂いております。

私たち盛岡青年会議所は、20歳から40歳までの多くの会員と共に、「修練」「奉仕」「友情」の三信条のもと、よりよい社会づくりのための運動を率先して行っております。私たちの運動は、若い人々が集まって自己啓発（修練）を行うものであり、それによって培われた力を用いて地域社会にサービス（奉仕）し、そのトレーニング・サービスを支える力として、フレンドシップ（友情）がある、というものです。盛岡さんさ踊りにおきましても、パレードの最後尾の「花車」にて大太鼓を鳴らしながら、一般参加者の方々と共に大きな祭りの輪を演出させて頂いております。本日は、よろしくお願ひ致します。



いわぶち けんじ  
**岩瀨 健二氏**

(一般社団法人盛岡青年会議所第63代理事長)

## 2. 「盛岡さんさ踊り」とは・・・

**聞き手**：皆様、よろしくお願ひ致します。さて、今、岩瀨様から、「一般参加者の方々と共に」というお話がありましたが、盛岡さんさ踊りは、「見て」楽しむ祭りとは、ひと味違うということでしょうか。

**岩瀨氏**：はい。盛岡さんさ踊りの一番の特徴は、何よりも、全員「参加」型の祭りであるということです。もちろん、各参加団体がそれぞれ太鼓、笛、踊りなど息のぴったり合った演奏を行うのですが、沿道でご覧になっている方々が、パレードの最後尾である私どもの花車の後ろに踊りながらどんどん参加して下さることで、全体として一体感のある祭りに大きく変化していくのです。そして、パレードの最後には、「輪踊り」といって、花車の周りを取り囲むようにして、参加者全員で輪になって踊って祭りを楽しむのです。

**聞き手**：それは、すごい迫力ですね。さて、踊りに参加するということですが、振り付け等を覚えるのは、大変なのでしょうか。

**門前氏**：いいえ。実は、「さんさおへれんせ集団」というものがございまして、祭り当日に踊りを練習し、そのままパレードに参加することができるのです。もちろん、盛岡さんさ踊りは、見るだけでも十分に楽しめる祭りですが、実際に踊って頂くことで、その魅力をさらに感じて頂けるのではないのでしょうか。まったくの初心者でも、当日の練習会で、元ミスさんさ踊りの皆さんに踊りを教えてもらえますので、心配なくパレードに参加頂けます。なお、「さんさおへれんせ集団」への参加に関しましては、人数的な制限から事前申込制になっておりますので、興味のある方は、盛岡さんさ踊りのホームページをご覧頂き、メール等でお申し込み頂ければと思います。

**聞き手**：本日は、ミスさんさ踊りの方にもお越し頂いておりますので、「ミスさんさ踊り」に関しまして、少し教えて頂けますでしょうか。

**門前氏**：はい。盛岡さんさ踊りにおきましては、パレード等を華やかに彩るために、毎年5月頃に「ミスさんさ踊り」として、盛岡市またはその近郊に住む明るく容姿端麗な独身女性が毎年5名、一般公募で選ばれます。そして、その後、2～3ヶ月程の猛練習を経て、本番のパレードで踊って頂くこととなります。



**聞き手：**毎年、パレードの先頭で艶やかな着物姿で踊っていらっしゃいますよね。私も、いつもドキドキしながら見させて頂いております (笑)。せっかくですので、ミスさんさ踊りの坂本さん、ミス太鼓の岡本さんも、是非、一言お願い致します。

**坂本氏：**はい。2013年のミスさんさ踊りの坂本と申します。ミスさんさ踊りは、さんさ踊りの期間中はもちろん、盛岡市内外の親善交流の役割を担って、オールシーズン活動しております。また、先ほど、お話しがありました「さんさおへれんせ集団」の練習会もお手伝いさせて頂いております。毎年、全国各地から多くの方にご参加頂き、楽しんで頂いております。

**岡本氏：**ミス太鼓の岡本と申します。盛岡市では、小中学校の時から太鼓に触れる機会が多く、「ちびっこさんさ」という団体もありますので、市民にとって太鼓は大変なじみ深い楽器といえます。パレードの当日も、是非、踊りだけでなく、太鼓にも注目してご覧頂ければと思います。(※筆者注記：別紙写真・盛岡さんさ踊り－パレード風景写真ご参照)



さかもと かほ  
坂本 佳穂氏

(2013年ミスさんさ踊り)

### 3. 「盛岡さんさ踊り」を巡るストーリー

**聞き手：**さて、話は少し変わりますが、私は、現在、弁護士知財ネットという団体のジャパンコンテンツ調査研究チームに所属しております、「日本遺産 (Japan Heritage)」認定制度という文化財行政について調査・研究しているのですが、この制度は、個々の文化財を「点」として扱うのではなく、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」に認定するとともに、そのストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の文化財群を「パッケージ化」し、地域が主体となって総合的に活用し、国内外に発信することによって、地域の活性を図るといえるものです。「盛岡さんさ踊り」についても、何か歴史やストーリーというものはあるのでしょうか。

**坂本氏：**はい。あります。まず、藩政時代より、踊り受け継がれてきた「さんさ踊り」の起源は、三ツ石伝説に由来しています。その昔、南部盛岡城下に羅刹鬼 (らせつき) という鬼が現れ、悪さをして暴れておりましたため、困り果てた里人たちは、三ツ石神社の神様に悪鬼の退治を祈願しました。その願いを聞き入れた神様は、悪鬼たちをとらえ、二度と悪さをしないよう誓いの証として、境内の大きな三ツ石に鬼の手形を押させました。そして、鬼の退散を喜んだ里人たちは、三ツ石のまわりを「さんささんさ」と踊ったのが、「さんさ踊り」の始まりだと言われています。(※筆者注記：別紙写真・盛岡さんさ踊り－鬼の手形石前ご参照)

**聞き手：**なるほど。そう言えば、岩手県は「岩」に「手」と書きますね。

**坂本氏：**はい。一説では、今お話しした「岩に手形」ということが、「岩手」の名の由来とも言われています。

**聞き手：**それは面白いですね。そうすると、そのような悪鬼退治の歴史的な背景・ストーリーを意識しつつ、三ツ石神社を観光して頂き、「鬼の手形石」をご覧になって頂いた上で、さんさ踊りの練習に参加して頂く。そして、そのまま、さんさ踊りのパレードに参加して実際に体験して頂くことで、県外の人たちにも、パッケージ化された岩手の文化財群を目一杯楽しんで頂くことができそうですね。

**門前氏：**そのとおりですね。しかも、盛岡市とその周辺地域に踊り継がれてきた「伝統さんさ」は、各地区によって振り付けや衣装が異なるため、そのような違いを理解することで、パレー

ドを更に楽しむことも可能です。盛岡駅前の広場では、伝統さんさ踊りの競演会も開催しますので、是非、各団体の競演を楽しんで頂ければと思います。

#### 4. 2013年のロシア「スパスカヤ・パーシニャ」への初参加

**聞き手：**さて、今、お話しさせて頂きました「日本遺産 (Japan Heritage)」認定制度ですが、この制度は、従来の文化財群の個別の「保存」から、パッケージとしての「活用」を重視する政策でもあります。盛岡さんさ踊りは、まだ「日本遺産 (Japan Heritage)」に認定されてはおりませんが、毎年祭りを開催して文化を「保存」することだけでなく、国外にも積極的に展開することで、文化の「活用」を行っていますね。

**岩淵氏：**はい。一昨年になりますが、平成25年9月1日、ロシアの首都モスクワの「赤の広場」にて行われた国際軍楽祭「スパスカヤ・パーシニャ」に、岩手県の「盛岡さんさ踊り」チームが日本の団体としては初めて参加しました。開会のセレモニーでは、数千人の観客が見守る中、イギリスやフランスなど13カ国のグループが赤の広場に設けられた会場で、音楽の演奏や踊りを披露致しました。

**聞き手：**日本の団体として初めて参加というのは素晴らしいことですね。

**岩淵氏：**はい。やはり、民間レベルでの日露の友好を深めると共に、東日本大震災でのロシアからの支援の感謝と、復興のアピールをしようという強い思いで参加させて頂きました。おかげさまで、当時の新聞やニュースでも、「盛岡さんさ踊りのチームが山吹色の浴衣姿で登場し、太鼓の音に合わせて踊りを披露！！」と大きく取り上げて頂くことができました。

#### 5. 2014年の和太鼓同時演奏の世界記録達成

**聞き手：**他にも、盛岡さんさ踊りに関して近年ニュース等で大きく取り上げられたものとしては、やはり、昨年の「和太鼓同時演奏の世界記録達成」が挙げられますね。当時の状況について、少しお話し頂けますでしょうか。

**門前氏：**はい。昨年の6月29日、「和太鼓の同時演奏記録」世界一奪還を目指すイベントが岩手県営運動公園陸上競技場にて行われました。さんさ踊りは、2007年に2,571人で演奏し、「和太鼓の同時演奏記録」の世界記録となりましたが、2011年に熊本市で行われたイベントにおいて2,778人と僅か207人の差で更新されてしまいました。しかし、今回、再び世界記録へ挑戦することで、東日本大震災で被災した郷土いわての復興を願う人々の思いの結集と絆を、世界に向けて発信することができました。

**岡本氏：**当日は小雨がちらつくあいにくの天候でしたが、3,437人の皆様が息の合った太鼓のリズムと演技を繰り広げ、見事世界記録を奪還することができました。北は北海道、南は愛知県など遠方からも多くの方々にご参加いただき、また、東北六魂祭のご縁で山形花笠まつりの方にもご参加いただくなど、絆を深めながら築いた記録となりました。(※筆者注記：別紙写真・和太鼓同時演奏の世界一奪還記念全体写真ご参照)



おかもと えりか  
岡本 恵里花氏  
(ミス太鼓)

#### 6. おわりに～東日本大震災の復興をこめて～

**聞き手：**最後になりますが、「盛岡さんさ踊り」を通じた復興にかける思いをお話し頂けますでしょうか。

**門前氏：**はい。私たちは、震災の年にも、盛岡さんさ踊りを開催さ

せて頂きました。震災が起きたのが、3月11日でしたので、半年も経たないうちに、開催させて頂いたこととなります。当初は、復興どころか復旧もままならない状況でしたので、開催自体が危ぶまれておりましたが、祭りというものは、このような時にこそ開催すべきものではないのかという意見を多く寄せて頂き、多くの募金や寄付金を頂く中で、無事に開催することができました。楽しそうに演奏する子ども達や、多くの参加者のパレードを楽しむ姿を見たときには、本当に感動しました。

私たちも、このような人々の「絆」を大切に考え、震災以後、毎年、被災地支援事業として、坂本さんや岡本さんを含めたミスさんさ、ミス太鼓の方々を沿岸地域に派遣させて頂き、多くの方々に岩手の文化を楽しんで頂いております。

**岩淵氏**：私たちも、震災の年は、特に人々の「絆」というものを感じずにはいられませんでした。何よりも、パレードの時には、沿道の多くの方々からご声援や暖かいお言葉を頂き、言葉にならない思いで一杯でした。やはり、「文化」というものは、単なる「物」であることに意味があるのではなく、人々の思いや伝統を紡ぎ併せた「絆」とすることで、はじめて本当の意味と価値が生まれるのではないのでしょうか。そして、そのような「文化」を、しっかりと守り、そして、次世代に引き継いでいくことが、私たちの大切な役割ではないかと思えます。

**聞き手**：そうですね。いつの時代も、震災や戦乱、経年劣化によって、常に失われる危険と背中合わせの文化を守っていくために本当に必要なものとは、ハードの部分としての文化政策の存在はもちろんです。それ以上に、それらを扱う私たち一人ひとりの強い思いや、「絆」という名の深い結びつきなのかもしれませんね。

今日は、貴重なお時間を頂き、大変ありがとうございました。さて、盛岡さんさ踊りは、今年も8月1日から4日に盛岡市の中央通での開催となります。是非、多くの方々に足を運んで頂き、岩手の魅力を存分に感じて頂ければと思います。 以上



【インタビュー参加者の集合写真】

(本インタビュー企画にご協力下さった皆様方〔左端は盛岡商工会議所・地域振興部主事の田上智也（たがみともや）氏、右から二人目は、一般社団法人盛岡青年会議所・専務理事の菊池聡（きくちさとし）氏〕)





(盛岡さんさ踊りーパレード風景)



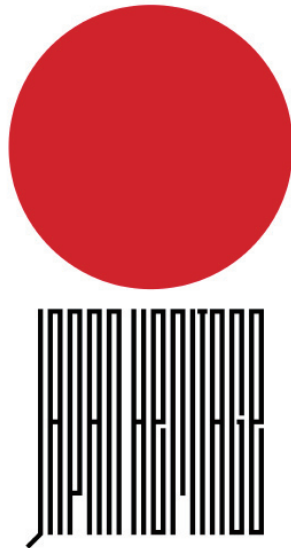
(盛岡さんさ踊りーパレード風景)



(盛岡さんさ踊りー鬼の手形石前)



(和太鼓同時演奏の世界一奪還記念全体写真)



(日本遺産の公式ロゴマーク)